

進捗状況の概要（2ページ以内）

① 大学改革の加速

平成28年度から始めた全学的な教育改革の中で、「課題発見・解決型グローバル人材」を育成するため、全学生が卒業までに身に付けるべき共通の能力（「複眼的に思考する能力」「多様性と地球的課題を理解する能力」「協働して実践する能力」）を「神戸スタンダード」として定めた。

また、これを実践する具体的な教育改革として、次の4つの取組を行った。

①ナンバリングとクォーター制の導入：体系的・組織的な教育を進め、学生が短期海外留学や海外インターンシップ等の主体的な学外学修に取り組める環境を整備する。

②「初年次セミナー」の導入：全学部で必修化し、入学直後の学生に「学びの姿勢」を身に付けさせる。

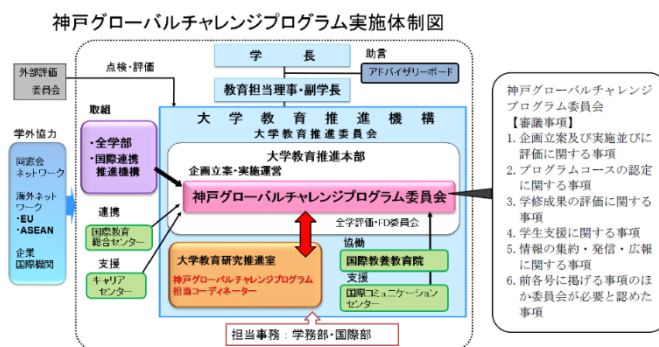
③教養教育の重視：1・2年生用の教養科目を見直し、3・4年生用の文理融合型の高度教養科目を新設し必修化する。

④学修環境の充実：全学でアクティブ・ラーニングを活用した授業科目・プログラムを増加させるとともに、ラーニングコモンズを充実させることにより、学生の主体的な学修を促し、学修時間の増加を図る。

本事業「神戸グローバルチャレンジプログラム」は、1・2年生の学生が、学外の様々な国際的なフィールドで自主的な活動を行い、「神戸スタンダード」が掲げる上記能力の必要性を体感し、「学びの動機づけ」を得ることで、「神戸スタンダード」を身に付けさせる本学の教育改革を加速させるものである。

② 事業の実施体制

本学の教学マネジメントを行う大学教育推進機構の下に、「神戸グローバルチャレンジプログラム委員会（以下「委員会」という。）、委員長は本プログラム実施責任者である大学教育推進本部副本部長/学長補佐（グローバル教育担当）」を設置し、大学教育研究推進室及び国際教養教育院と協働し、本事業の企画・立案、運営及び実施について全学的な意思決定を行っている。



③ 事業の実実施計画・継続性

大学改革推進等補助金を関係部局に計画的に配分し、平成30年度は、15コースを実施し、117名の学生が参加した。9月に海外渡航をしたコースでは、台風の影響により、関西国際空港が閉鎖されたため、急遽、空港を変更したり、出国日・帰国日を変更したりする必要があったが、各コースの教職員、国際部及び学務部で連携し、安全に配慮して学生の渡航をサポートした。また、令和元年度に実施するコースを計画し、委員会で認定した。

補助事業終了後の体制については、全学部及び他の海外プログラム担当部署等とこれまでの本プログラムの成果や学生の経年変化の分析データを共有しながら、今後の学内実施体制について検討を進めるとともに、資金については、補助期間終了後の学内予算の確保に向けて、各部局の意向調査をする予定である。

④事業成果の普及

これまでもHP等を通じて本プログラムの成果を社会に発信してきたが、平成30年度は、シンポジウムを開催した。シンポジウムでは、これまでの取組と成果報告として、本プログラムの参加学生及び学内の関連プログラムの参加学生の成果発表、学外講師による講演を行った。学内外から約100名の参加があり、関係者だけでなく、一般の方へも広く、本学のグローバル化の展望等を発信する機会となった。特に、「学生による発表」では、本プログラムへの参加がきっかけとなったキャリア選択の事例発表がある等、本プログラムの学修成果が生かされている様子が伝わり、参加者のアンケートからも高い満足度を得た。

また、長期的な視点では、本プログラムへの参加がその後の進路選択に影響している学生が複数いること、在学中に再び海外での学修活動(留学を含む)に参加する学生の割合が年々増加傾向にあることから、本プログラムの成果が普及していると言える。

⑤選定されたテーマの取組を中核にした総合的な大学教育改革の取組

平成28年度に始まった本学の教育改革である「神戸スタンダードの制定」、「クォーター制の導入」、「初年次セミナーの開講」の取り組み状況は、以下のとおりである。

・神戸スタンダードの制定

神戸大学の全学部生が卒業時まで身に付けるべき共通の能力として「神戸スタンダード」を定めた。この「神戸スタンダード」は、「複眼的に思考する能力」、「多様性と地球的課題を理解する能力」、「協働して実践する能力」からなり、これらの能力を身につけるために従来の教養教育を見直し、新たに低年次を対象とする「基礎教養科目」と「総合教養科目」、専門分野を学んだ高年次を対象とする「高度教養科目」を設け、4年間を通じた教養教育のカリキュラムを構築している。平成30年度は、3年生対象の「高度教養科目」を開講した。

・クォーター制の導入

学生が1つのクォーターと休みの期間を組み合わせ「チャレンジターム」として設定することで、留学や海外インターンシップ、ボランティア等の学外活動への参加を促進している。また、週1コマ8週、週2コマ8週の授業を開講することで、集中的な学修の機会を与えている。

・初年次セミナーの開講

教員や他の学生との対話を通じて、大学生として必要となる自律的な学びの姿勢を育み、学生に「神戸スタンダード」を身につけるための導入教育として、全学部の1年生に専門科目(必修)として開講している。各学部では、全学部共通の教材を活用しつつ、各学問分野の導入的な内容についても教授している。授業終了後には、教員及び学生に対してアンケートを実施しており、その結果については、翌年度の教材の改訂及び授業計画に役立てている。